

ドパミントランスポータシンチグラフィにおける線条体体積比(SBR)算出方法の改良

研究の意義・目的について

ドパミントランスポータシンチグラフィにおける線条体体積比 (Specific Binding Ratio: SBR) はパーキンソン病/症候群の診断、あるいはレビー小体型認知症とアルツハイマー型認知症の鑑別などに有用な指標として用いられています。しかし従来のSBR値の算出方法には解析画像位置の手動選択による再現性の低下、個体差を無視したバックグラウンド値の使用などいくつかの問題点がありました。本研究はソフトウェアアルゴリズムを改良して上記の問題を改善することで、より信頼の高いSBR値の取得方法を確立することを目的とします。

研究方法

当院で施行したドパミントランスポータシンチグラフィ画像のSBR値を従来法と新法とで比較し、患者様の症状や画像と照らし合わせてどちらの方法がより適切であるか検討します。

予測される利益・不利益について

この研究はすでに行われている検査結果を使用するもので、対象となった患者様に直接生じる利益はありません。また新たな負担などの不利益もありません。

個人情報の保護について

個人情報を直接同定できるような情報は使用いたしません。また、研究の途中においてもこれらの情報が漏れることのないよう細心の注意を払います。

患者さんへのお願い

研究にあたり患者様に直接の同意は頂かず、この掲示によるお知らせをもって同意を頂いたものとして実施いたします。研究内容の趣旨をご理解いただき、研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究結果の公表について

本研究結果は学会で発表する予定です。

費用について

この研究に関して、患者さんへ追加でご負担いただく費用はありません。また、謝礼もありません。

研究結果の公表について

(公財) 天理よろづ相談所病院 RIセンター 北村 一司 (研究責任者)
電話 0743-63-5611 (内線8607)